

2024年度 ニュースレター Vol.3



あきとふゆ

2024.12.19

神の愛のプレゼント

『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネの福音書 3章16節

学校法人賜恩学園理事長
石田 敏則



今年も聖鳩幼稚園のクリスマス会を開催することができ本当に感謝しています。こどもたちも教師もそしてご家族の皆さんも一安心されていることでしょう。

幼稚園のお友達にクリスマスは何の日と聞くと、イエス様の誕生日と答えます。そして次の答えはサンタさんからプレゼントをもらえる日との返ってきます。

クリスマスの象徴と言えばサンタクロースとだれもが考えます。サンタクロースの起源には色々な説がありますが、3世紀の教会の司教であった聖ニコラスが最初のモデルと言われています。

彼は貧しい人々に贈り物を与えたことで知られ、やがて「贈り物を持ってくる人物」という伝承に結びつきました。聖ニコラスは貧しい3姉妹が奴隸として売られることを知り、彼女たちが結婚できるよう持参金となる金貨をその家に投げ入れました。金貨が暖炉のそばに干してあった靴下の中に入り、クリスマスに靴下をぶら下げる習慣が生まれたともいわれています。

ニコラウスの着ていた赤いガウンと三角帽がサンタクロースの衣装の原点ともいわれています。この伝承はヨーロッパ各地に広がり、特にオランダでは「サンタクラース」という名前で語られるようになり、それがアメリカに伝わると、「サンタクロース」に変化しながら、独自のキャラクターが生み出されていきました。

また、1897年にニューヨークの新聞『ザ・サン』に8歳の少女バージニアからの「サンタクロースは本当にいるんですか?」との一通の手紙が掲載されました。新聞社は、それに対する答えとして「本紙は、以下に掲載される投書に対して、ただちにお答え申し上げるとともに、このようにまっすぐな方が読者におられることを、心から嬉しく思います。」「はい、バージニア、サンタクロースはいます。」という有名な社説が、子どもたちの夢を支える重要な一文として世に広められました。現在でも「世界一有名な社説」として取り上げられています。

この言葉は、サンタクロースがただの伝説ではなく、希望や善意の象徴であることを物語っています。こうして形成されたサンタクロースのイメージは世界中に広がり愛される存在となりました。そのルーツには、聖ニコラスの優しさと、時代を経る中で人々の願いや価値観が織り込まれているのです。

今も、サンタクロースは子どもたちの心に明かりを灯し、贈り物を通じて善意や思いやりを伝える存在であり続けています。その姿には、歴史を通じて培われた無数の文化や想像が息づいています。

そして、この愛のプレゼントは、まず神様が私たちを愛してイエス・キリストをプレゼントとしてこの世に送ってくださったことにあるのです。今年も心のこもったプレゼントを用意して良いクリスマスをお過ごしください。